

第4次福山市上下水道事業経営審議会（第1回）議事概要

- 1 日 時 2023年（令和5年）10月31日（火）
9時30分から11時30分まで
- 2 場 所 中津原浄水場 水質管理センター2階 会議室
- 3 出席委員 10人（委員総数 10人）
池田 佑介，客本 牧子，日下 真吾，小林 久人，小林 仁志，
佐藤 彰三，清水 聡行，武井 晶代，角田 千鶴，藤井 徹太
（※名前は五十音順）
- 4 傍 聴 人 0人
- 5 次 第
 - （1）開会
 - （2）任免通知書（委嘱状）の交付
 - （3）上下水道事業管理者挨拶
 - （4）審議会委員及び上下水道局職員自己紹介
 - （5）議事
 - ①会長及び副会長の互選
 - ②審議会の目的
 - ③上下水道事業の経営状況について
 - ④福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）後期実施計画の進捗状況について
 - ⑤施設見学（中津原浄水場）
 - （6）閉会
- 6 配布資料
 - （1）第4次福山市上下水道事業経営審議会（第1回）次第
 - （2）福山市上下水道事業経営審議会委員及び上下水道局職員出席者名簿
 - （3）配席図
 - （4）審議会の目的について
 - （5）上下水道事業の経営状況について
 - （6）福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）後期実施計画の進捗状況について
 - （7）福山市上下水道事業経営審議会条例

7 会長及び副会長の互選

会長には，清水委員が選任された。副会長には，日下委員が選任された。

8 質疑要旨

- ・「給水収益に対する資金残高」は、ここ2年は収益が大幅に落ちたことで指標が悪くなったというのは指標として適切なのか。例えば、過去3年の収益の平均に対する比率にするなど、下水も含めて検討いただきたい。
⇒見た目の状況と実態がかけ離れてくる指標は問題があると考え。次期ビジョンを策定する3年後の作業において、見直しを含めて考え方を整理させていただきたい。
- ・国の臨時交付金は今年度も活用することは可能なのか。
⇒交付金の制度としては今年度もあるが、限られた中で配分されるものであり、今年度も一般会計に対して要求を行う予定。要求に当たっては、ただ単に経営状況が悪くなったからという理由ではなく、原油価格高騰など費用増に明確な理由があるものについて行うというスタンスであり、それを当てにしないような経営を行う必要があると考えている。
- ・電力価格高騰に伴う影響について、この臨時交付金でどの程度補うことが出来ているのか。
⇒昨年度の決算では、ほぼ要求額を受け入れている。
- ・今年度の下水道予算は、浸水対策の事業費が増加したことに伴い、企業債の償還額より借入額の方が多くなったとの事だが、上下水道局が借入を行うが、償還の資金は一般会計から繰入れるという流れでよいか。
⇒お見込みの通り。下水道の場合、汚水と雨水があり、汚水処理に係る費用は使用者が負担する下水道使用料により賄うのが原則である。雨水の浸水対策に係る費用については、一旦上下水道局が企業債の借入れを行い、その返済を一般会計からの繰入金で賄うというスキームである。
- ・下水道の大型雨水対策により、一旦企業債が増加に転じるが、実質的には行政本体からの補てんがある程度予定されているという解釈でよいか。
⇒お見込みの通り。下水道の場合、雨水・汚水で一つの会計だが、その内訳を区分した場合、雨水の企業債残高は一旦増加するが、汚水については減少する。
- ・昨今は節水型社会ということで、給水収益が減っていく傾向にあり、いわゆる家庭用は人口減少により減っていくのは仕方ないが、ここ数年のコロナ禍の影響により減少した業務・営業用や工場用がなかなか回復してない。どういう業種において影響が出ているかなどの把握はされているか。
⇒ご指摘の通り、生活用はコロナ禍により一時増加したが、業務・営業用と工場用は減少後、元の水準まで回復していない。比較的高い単価の使用者の部分が回復していない状況である。職種についての細かい分析は、データが無いためできていない。

- ・昨年度、下水道の有収率が非常に高いように思うが、この有収率は不明水も考慮したものなのか。

⇒本市の下水道には合流式下水道と分流式下水道があり、雨水と汚水を一緒に処理する地域と、汚水だけを処理する地域がある。そういった特性から、有収率は降水量に大きく左右される。昨年度は雨が少なかったため有収率が高かったが、雨が多い年は、雨水が下水管に入り、それが処理場へ流入することで有収率は低くなり、処理コストも高くなる、という流れになる。
- ・A I を活用した水道管路の劣化予測診断について、既存の計画との誤差など、1年実施した成果はどのようなものか。

⇒昨年度1年間は北部地域で実施したが、まだデータが少ないこともあり、現時点での判断はできていない。2年目、3年目で中心部、南部、東部を実施する予定であり、A I はデータが増えるほど精度が上がるため、市域全体の診断結果により検証を行い、有効性が高いかどうかを判断していきたい。
- ・福山市ではデジタル化を推進しているが、この経営審議会では紙で資料を準備されている。環境面や事務局の作業を考えると、今すぐとまでは言わないが、紙媒体から電子媒体へ移行してもよいのではないか。

⇒市としても取り組んでいるペーパーレス化と、委員の皆様にご議論していただくための環境づくりの観点との比較の中で、これまでどおり紙媒体がいいのか、電子媒体に移行するため、ハード面で皆様にご協力をお願いするのか、その辺のバランスを見極めながら、移行していきたい。
- ・ペーパーレスについては非常に良い意見であり、委員が紙とデジタルを自由に選択できていいのではないか。委員の意見も踏まえながら、進めていってほしい。

(会長意見)
- ・Y o u T u b e チャンネルの登録者数は、どのように増えていっているのか。

⇒現在のチャンネル登録者数は21人。魅力あるコンテンツで、より多くの方に局の事業を知っていただくための取組を進めていきたいと考えている。
- ・過去の経営審議会においても、マンホール蓋に関する意見があったと思うが、現在どのような状況になっているのか。

⇒昨年、福山城築城400年という節目に合わせて、広島東洋カープのカープ坊や、水野勝成公、市章のコウモリをあしらったデザインマンホールを作成し、市内11か所に設置している。またマンホールカードも広報活動の一環で作成した。
- ・デジタルサイネージについて、効果や反応を教えてください。

⇒水道管凍結関係、水道週間、下水道の日、年度末の水道に関する手続き等、上下水道局がPRできるものから取り組んでいる。今は市役所1階のホールで行っており、

今後拠点支所など広げていく考えである。

- ・上下水道局で開設したY o u T u b eチャンネルについて、登録者数を増やすための広報に取り組んではどうか。ショート動画も効果があるのではないかと。
⇒ホームページへの掲載などの取組をしている。もっといい形で広報してもらいたい、というご意見もいただいているので、さらなる広報活動に邁進していきたいと考えている。
- ・Y o u T u b eチャンネルで、例えば「下水道に油を流さないください」とかいろんな注意喚起ができると思うので、クリックしてもらえそうな仕組みを考えていければ。今までの新聞やチラシや町内会というよりも、今の現代人は年配の方も含めてY o u T u b eなどを見る時代なので、そういった手法もあってよいのではないかと。
今後、その辺りは頑張ってください。（会長意見）
- ・福山市の取組や予算について、適正かどうかを判断するうえで、他の行政機関の財政や理想とするモデルケース等を取り上げて説明したほうがわかりやすいと思った。
⇒今回は決算報告や昨年度の取組を中心に報告をしたため、他団体との比較の要素が少なかった。今後、審議内容に応じて、他事業体との経営比較や事例の資料も示しながら、ご意見をいただきたいと考えている。
- ・工業用水道事業の給水事業所数が28と27の間で増減をしている。工業用水は専用の給水管を布設されていると思うが、水道の使用水量が変わったら給水事業所数は変化するものなのか、それとも本当に使用中止したり、新規申込みにより増えたのか。
⇒工業用水は、市内のうち対象地区が限定されているが、そのエリアで事業者からの使用開始や中止の申込みがあった影響のみにより、給水事業所数は増減している。
- ・「防災・減災、強靱化対策」について、上下水道局として、どういう対策が必要で、どういうことに具体的にに取り組んでいくことを考えているのか。
⇒現時点では、主要指標においてビジョン最終年度である2026年度で設定している目標数値をめざす、という考え方である。詳しくは、次回以降で説明させていただきたい。
- ・使用水量が減っている中、料金改定は2015年が最後であった。値上げをして欲しいわけではないが、経営健全化という視点で大切なことであるため、どういう考え方で取り組むのか。
⇒水道料金は25年間改定を行わずに、何とか経営してきた。現時点の財政状況は厳しいものとなっているが、ビジョンにおいて想定した範囲内には納まっている。次年度以降の決算報告など、経営状況についてもお示しをし、議論いただきたいと考えている。

- ・前回の審議会でSDGsについて議論したが、最終的に取組とどのように繋がっているのか全くわからないので、次回は、そのことがわかるようにしていただきたい。
⇒SDGsの取組に対する効果・達成度を量る指標については、全国的にも市としても無い。理念あるいは取組を進めていく道しるべとして捉えている。今後どのような形で成果とするかは、検討課題と考えている。上下水道部局単独ではなく、市全体としての考え方も整合をとる必要もあるため、報告できるものから説明をさせていただきたい。
- ・消防的観点では、中心市街地には自然水利が無いため、地震が起こった場合に、阪神淡路大震災の明石市のように大規模な災害になる。市街地での自然水利の観点を含めた優先順位をつけて、耐震化の方は進めていただきたい。
⇒耐震化については、色々な要素を考慮したうえで、しっかり見極めながら対策を進めていきたいと考えている。
- ・平成30年7月豪雨の際、沼田川水系では浄水施設の浸水被害で大規模な断水が発生したが、本市の浄水施設の浸水対策はどうなっているのか、今後教えていただきたい。
⇒中津原浄水場については、ドアや窓などの開口部にコンクリート擁壁やアルミ製のはめ込み式防水版を設置するとともに、復旧に時間を要する電気設備等は2階以上へ移設するなど、万一、浄水場が浸水した場合でも、施設への影響を最小限に抑えるための対策を講じている。また、出原浄水場についても、施設更新に合わせて約1.2メートルのかさ上げを行っている。

以上